

七小校長室便り

開校50周年

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.14 令和5年(2023年)3月22日



明日と明後日で、令和4年度の教育活動が全て終わります。

明日、3月23日(木)は、全学年の修了式を行います。

どの学年の児童も、本校の教育課程を修了し、次の学年に進級・進学をいたします。また、開校50周年記念の年の令和4年度の教育活動も、卒業式を残して、全て無事に終わることになります。本校の全ての子供たちにとっても、私たち教職員にとっても、忘れられない様々な思い出を胸に、大きな原点の年となった令和4年度を終えていきたいと思っております。

明後日の3月24日(金)は、令和4年度の卒業式です。

開校50周年の最高学年である6年生が卒業生として、旅立つ日となります。国立七小の50歳をお祝いするために、6年生の子供たちが自分事として主体的に計画したり、全校児童のリーダーとして実行したりしながら、全校の子供たちがみんなでお祝いができるように頑張りました。

運動会や展覧会などの学校行事では、6年間の成長が分かる取組をして、活躍をしてくれました。クラブや委員会では、後輩たちの面倒をよく見て、楽しくよりよい活動になるように関わって続けてくれました。そして、年間を通して、学校全体で頑張った「やさしく」の四文字を大切にされた姿勢や態度で、頑張ってくれました。

その大事な節目の年の最高学年として、今度は、卒業式でお祝いされる側となります。

この1年間の頑張りを自分の誇りとして、立派に堂々と巣立って行ってほしいと思っております。私としての思いは、ただただ感謝の思いと同時に卒業生の未来に幸せの桜の花が咲き誇ることを願っております。

この1年お世話になったPTAをはじめとする保護者の皆様、見守り会並びに地域の皆様、関係各位の皆様に、心からの御礼と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



本校を去られる教員をお知らせいたします。



今年度末においては、教員異動の報道における発表が3月21日(火)の春分の日となり、多くの保護者や地域の皆様には、ご覧になった方も多いたところかと思っております。

これまでは、4月1日に報道発表されてきており、学校としては、各年度当初の学校便りで教職員の異動や退職等のお知らせを出してまいりました。

今年度においては、本校を去られる教員のみ、この校長室便りでお知らせいたします。

令和4年度末で、本校を異動や退職をされる他の職員につきましては、令和5年度に本校に来られる新しい教職員のお知らせとともに、年度当初の学校便りで紹介いたします。ご了承ください。

<本校を去られる教員>

ありがとうございました！

新しい場所でもご活躍されることをお祈り申し上げます。

今年度末においては、4名の教員が本校を去られることとなりました。これまで、本校のチームの一員として、子供たちの安全と安心のために、そして、様々な教育活動に対してご尽力をいただきました。これまでのご貢献に御礼を申し上げるとともに、新しい場所でのご活躍を心からお祈り申し上げます。誠に、ありがとうございました。

尚、令和5年度4月28日(金)に離任式を行う予定となっております。また、この紙面にて、紹介した教員については、修了式後にもお別れの会を設定しております。ご承知おきください。



七小見守り会の皆様へ

本校の開校50周年の年に、見守り会が発足されて10年が経ちました。毎朝登校時の本校児童の見守りについては、衷心より御礼を申し上げます。誠に、ありがとうございます。

また、本校の取組でもある「あいさつ」についても、見守り会の皆様の積極的な声掛けのお陰で、多くの子供たちが挨拶を返したり、自分からあいさつをしたりするようになってきています。大人が範を示す上でも、大変有難いことであり、私たち教職員も見習わせていただいております。

学校と地域が連携することの一つの在り方として、本校での取組が様々なところに拡がり、多くの子供たちが安全で安心して登校できるようになることを願っているところです。

子供は、未来の宝です。すくすくと成長し、社会の大切な人材として活躍していくことを願い、育てていくためにも、各ご家庭はもちろんのこと、見守り会のような地域の積極的で主体的な取組がとても大切であり、学校としても、しっかりと連携を図りながら、本校の児童の更なる成長への支えとさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症の対策として、見守り会との連携の様々な取組がこの3年間においては、行うことができませんでした。先日の3月6日(月)の全校朝会時には、久しぶりに見守り会の皆様に全校児童にご挨拶をいただき、子供たちからお礼の言葉を送らせていただきました。

来年度以降、見守り会との連携や取組については、状況を判断しながら、今回の全校朝会時のような取組を行ってまいりたいと思います。来年度は、11年目の見守り会となります。これまでの見守りに対し、常に感謝の思いをもって、見守り会の皆様とよりよい連携を図ってまいります。

【校長のつぶやき】

令和5年の本年も、3月末を迎えるところとなり、年が明けてから、既に3ヶ月が終わろうとしています。国立七小の校長として着任してから既に2年目を終えるところまで来ました。本市において、多くの方とのつながりもできましたが、時の経つスピードに驚きながらも、これまでのことを思い返す時期でもあります。

また、この時期は、教員として過ごしてきた年月の中で、私と縁のある方のお話を、本人からではなく別の方から聞くことがよくある時期でもあります。お話をした方の職場で頑張られている方や私と同じで校長になられた方、また、残念ではありますが、ご退職をされた方等、巡り巡って、私の耳に届きます。私も、教員人生として30年以上となり、多くの方と学校教育に携わってきましたし、学校現場で多くの方と仕事をしてきました。時には、思いもよらない縁に遭遇することもあります。

私の大学時代に、大学の合唱団の常任指揮をされていた方がいらっしゃいます。その方には、様々なわがままを言い、時には大変にご迷惑をおかけしたこともありました。自分が学生指揮者としてデビューした時にも、大きな心で受け止めていただき、稚拙な技術の私に励ましを送っていただき、信頼していただきました。私のお世話になった学生時代の恩師におかれては、もう既にお亡くなりになっていらっしゃり、ご恩返しのできないまま、今に至っているところです。

ところが、今年度驚きとともに、その恩師のことを思い返すきっかけがありました。本校の教員の中に、その恩師との関わりのある方がいらっしゃり、私の指揮の姿に、その恩師の姿を投影されていたことをお聞きしました。本当にびっくりしてしまいました。

その教員とは、これまでにはつながりはなく、何らかの関係がなければ、同じ方から指導を受けたり、つながりをもっていたりすることは、そんなに大きい確率で起こることではないと思います。国立市に来て、そして、国立七小にお互いに着任しなければ、起こらなかったと思います。きっと、縁のなせる不思議な力だと思います。

人と人との出会いは、何かの縁がきっとどこかにあり、お互いに共鳴し合うことで、化学反応が起り、様々な生きていくための力になっていくのだと思います。これまで出会った方を思い返しながらか、改めて、人との出会いを大切にしていけることを心に決め、この年度末の別れの時を過ごし、新年度の出会いの時を迎えたいと思います。

最期に私の好きな詩を皆様にお伝えして、今年度の校長室便りと校長のつぶやきを閉じたいと思います。

「爽やかな日、別れの日から、
よしや相見ることの叶わなくとも
わたしはよもや忘れまい。
呼び合う心と心の実在を
刹那の永遠にかけて信じよう。」

